



問い合わせ先  
中央図書館  
096825-1111

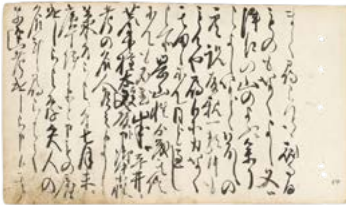
第13回菊池市人権フェスティバル特選作品

人権・同和教育シリーズ 161

問い合わせ先 人権啓発課  
096825-7209

嶋屋日記には、山本郡平井村（現熊本市北区植木町平井）の荒木権太夫という人物が登場します。「考の名人」、いわゆる占い・占考の名人だったようで、特に失せ人探しで活躍する様子が書き残されています。

安永7（1779）年7月、西迫間村で宇吉という17歳の道ちが行方不明になります。主人に叱責され、家に一度帰りたいと雇い先を出た後、消息が分からないという事です。方々を探し、さまざま占いで見つけられず、困った人々は荒木権太夫へ頼ります。権太夫の考の結果は「生きている、主人の家より東の海山数十里を隔てた場所にいる、八月八日には間違いなく生まれつた場所のそばに来るだろう」とのことでした。両親は「夫しを力二、月日の過候をまち暮し」しました。そして迎えた8月8日、同村の幸衛門が山の中で宇吉を発見します。話を聞くと、行方不明の間、中国の三味線弾きの荷物持ちなどをして下関・大坂・伊勢などを回ったそうので、「遠方にいる・戻ってくる」という占考の結果がよく当たっていたことがうかがえます。



後ろから6行目冒頭に「考の名人」とある



←菊池デジタルアーカイブ QRコード

さらに、天明3（1783）年10月22日、喜三次という者が、雇った男に銀子一貫目を持ち逃げされるという事件が起きます。行方を捜してほしいと頼まれた権太夫は「未申（南西）の方向にいること二十十六日を越すと、船に乗るであろうこと」を告げます。南西、船ということから高瀬の船着場にいるのでは、と予想をつけた捜索隊は男を追い、27日に、船に乗って島原に渡ったところを捕えました。この後、天明5（1785）年にも盗人の居所を言い当てた話が記されています。まるで千里眼のような正確な占考は、にわかには信じがたいですが、同時にとても興味深いものでもあります。「嶋屋日記」は菊池デジタルアーカイブ (<https://dalibary-kkuchi.jp/>) でご覧くださる。

【作文の部】

「大きな声でありがとう」

菊池小4年 吉田 光

ぼくは、今年の四月に菊池小学校へ転校しました。転入式の前に、ぼくはお母さんと学校へいききました。ぼくには、みんなとちがうところがあります。それは、しゃべり方です。みんなとほんの少しだけしゃべり方がちがうきつ音という言語しょうがいがあるからです。ぼくのことをわかってほしい。ぼくが楽しく学校へ行きたいとずっと思っていました。

転入式の日、ぼくは不安でドキドキしました。全校生の前でのご挨拶は、「イヤだ」と思っていたら、教頭先生が、「先生が名前をよんだら一歩前に出ておじきすればいいです。何も言わなくてもいいよ。」

と言ってくれました。ぼくは、飛び上がるくらい、ほっとしました。全校生の前で、「よ、よ、よ、吉田光です。」

となったら、また笑われて、かわられるのが「ヤダー」と思っていました。ぼくは、教頭先生

のことが、成松先生の次に好きになりました。

新しいクラスでは、すぐに友だちが出来ました。クラスのみんなは、ぼくのしゃべり方を笑う人も、からかう人も、マネをする人もいません。ぼくは、学校へ行くのが楽しくなりました。友だちとケンカしてなかつた。友だちとケンカしてなかつた。友だちとケンカしてなかつた。友だちとケンカしてなかつた。

勉強です。大好きな友だちといっしょにする勉強が楽しいと、物知り博士になったような気分になります。学校が、こんなに楽しい場所だった。それを教えてくれたクラスのみんなに大きな声で「ありがとう」と伝えたいです。

ぼくの学校は、ここにあります。ぼくの友だちはここにいます。ぼくの先生はおこるとこわいけど先生はおもしろいです。先生には特大の「ありがとう。」



【標語の部】

しらんぱり ぼくのこころがないている

泗水西小1年 松永 尊心

ありがとう はじけるシャワー 笑顔さく

泗水西小5年 池田七絆

「それいいね」認められたら嬉しいな

菊池南中3年 梅田拓実

ありのまま 個性認めて 手をつなぐ 一般 野田孝太郎



【ポスターの部】 七城小1年 野田莉音菜